

H27年度にエームス試験を実施した物質の総合評価

							試験機関による結果の判定		専門家による評価			H26年遺伝WG における評価	【総合評価】(案)	参考(構造活性相関結果)	
通し 番号	文献調査 通し番号	試験 番号	CAS番号	物質名	溶媒	試験方法	結果	最大比活性値(Rev/mg)	担当委員	試験結果の 適否	備考		①遺伝毒性なし ②弱い遺伝毒性あり ③強い遺伝毒性あり ④遺伝毒性ありだが、強弱の判断 不能 ⑤遺伝毒性の有無の判断困難	判定結果 (H25年度実 施)	判定結果 (H26年度実 施)
1	★S-0292	T-1990	5089-70-3	Silane, (3-chloropropyl)triethoxy	アセトン	ブレインキューベーション法	陰性		荒木委員	適		H26第3回WG④遺伝毒性の強弱困難→エームス試験(不備なし)	①遺伝毒性なし	-*	
2	★S-0566	T-1992	42978-66-5	2-[2-[2-(アクリロイルオキシ)(メチル)エトキシ](メチル)エトキシ](メチル)エチル=アクリラート	1,4-ジオキサン	ブレインキューベーション法	陰性		荒木委員	適		H26第3回WG④遺伝毒性の強弱困難→エームス試験(不備なし)	①遺伝毒性なし		
3	S-1246	T-1993	62-23-7	p-ニトロ安息香酸	DMSO	ブレインキューベーション法	陽性	8.18×10 ² TA100(-S9)	荒木委員	適		(構造活性相関から)	②弱い遺伝毒性あり		+
4	S-1289	T-1994	79-03-8	プロパノイルクロリド	1,4-ジオキサン	ブレインキューベーション法	陰性		荒木委員	適		(構造活性相関から)	①遺伝毒性なし		+
5	S-1302	T-1995	80-48-8	パラ-トルエンスルホン酸メチル	DMSO	ブレインキューベーション法	陽性	3.76×10 ³ TA100(+S9)	荒木委員	適		H26第4回WG④遺伝毒性の強弱困難→エームス試験(不備あり)	③強い遺伝毒性あり		
6	S-1553	T-1996	112-16-3	ドデカノイル=クロリド	1,4-ジオキサン	ブレインキューベーション法	陰性		荒木委員	適		(構造活性相関から)	①遺伝毒性なし		+
7	S-1557	T-1997	112-64-1	テトラデカノイル=クロリド	1,4-ジオキサン	ブレインキューベーション法	陰性		太田委員	適		(構造活性相関から)	①遺伝毒性なし		+
8	S-1558	T-1998	112-67-4	ヘキサデカノイル=クロリド	1,4-ジオキサン	ブレインキューベーション法	陰性		太田委員	適		(構造活性相関から)	①遺伝毒性なし		+
9	S-1573	T-1999	118-88-7	アミノトルエンスルホン酸	DMSO	ブレインキューベーション法	陰性		太田委員	適		(構造活性相関から)	①遺伝毒性なし		+
10	S-1613	T-2000	128-03-0	カリウム=ジメチルジチオカルバマート	DMSO	ブレインキューベーション法	陽性	1.12×10 ¹ TA1535(-S9)	太田委員	適		H26第3回WG④遺伝毒性の強弱困難→エームス試験(不備なし)	②弱い遺伝毒性あり		
11	S-1619	T-2001	130-17-6	2-(4'-アミノフェニル)-6-メチルベンゾチアゾール-7-スルホン酸	アセトン	ブレインキューベーション法	陽性	5.37×10 ³ TA98(+S9)	太田委員	適		H26第4回WG⑤遺伝毒性の有無の判断不能→エームス試験(不備あり)	③強い遺伝毒性あり		+
12	S-1657	T-2002	141-75-3	ブチリル=クロリド	1,4-ジオキサン	ブレインキューベーション法	陰性		清水委員	適		(構造活性相関から)	①遺伝毒性なし		+
13	S-1799	T-2003	620-20-2	alpha,3-dichlorotoluene	DMSO	ブレインキューベーション法	陰性		清水委員	適		(構造活性相関から)	①遺伝毒性なし		+
14	S-2055	T-2004	2602-34-8	[3-(2,3-epoxypropoxy)propyl]triethoxysilane	アセトン	ブレインキューベーション法	陽性	3.27×10 ² TA100(+S9)	清水委員	適		(構造活性相関から)	②弱い遺伝毒性あり		+
15	S-2069	T-2005	2736-40-5	ジエチルアセチルクロライド	1,4-ジオキサン	ブレインキューベーション法	陰性		清水委員	適		(構造活性相関から)	①遺伝毒性なし		+
16	S-2218	T-2006	5809-08-5	1,1,3,3-tetramethylbutyl hydroperoxide	DMSO	ブレインキューベーション法	陽性	6.39×10 ² TA98(-S9)	清水委員	適		(構造活性相関から)	②弱い遺伝毒性あり		+
17	S-2431	T-2007	10102-43-9	一酸化窒素	窒素	ガス暴露法	陽性	0.0977 % TA1535(+S9) WP2uvrA(-S9)	本間委員	適	陽性の強さをイメージできない。最大比活性値は”計算できない”として、コメントとして、”陰性対照に比べて最大26倍の復帰変異コロニー数の増加(TA1535, -S9)”としてはどうか？	H26第3回WG⑤遺伝毒性の有無の判断不能「エームス試験候補」	③強い遺伝毒性あり		
18	S-2609	T-2011	16245-97-9	[(octadecyloxy)methyl]oxirane	アセトン	ブレインキューベーション法	陰性		本間委員	適		(構造活性相関から)	①遺伝毒性なし		+
19	S-4052	T-2013	2226-96-2	4-ヒドロキシ-2, 2, 6, 6-テトラメチルピペリジン-N-オキシル	注射用水	ブレインキューベーション法	陽性	2.50×10 ¹ TA100(-S9)	本間委員	適		H26第4回WG⑤遺伝毒性の有無の判断不能→エームス試験(不備あり)	②弱い遺伝毒性あり		

							試験機関による結果の判定		専門家による評価			H26年遺伝WG における評価	【総合評価】(案)	参考(構造活性相関結果)	
通し 番号	文献調査 通し番号	試験 番号	CAS番号	物質名	溶媒	試験方法	結果	最大比活性値(Rev/mg)	担当委員	試験結果の 適否	備考		①遺伝毒性なし ②弱い遺伝毒性あり ③強い遺伝毒性あり ④遺伝毒性ありだが、強弱の判断 不能 ⑤遺伝毒性の有無の判断困難	判定結果 (H25年度実 施)	判定結果 (H26年度実 施)
20	S-4083	T-2014	139481-59-7	2-エトキシ-1-[[2'-(1H-テトラ ゾール-5-イル)ビフェニル-4-イ ル]メチル]-ベンゾイミダゾール-7- カルボン酸	DMSO	ブレインキューベ ーション法	陰性		本間委員	適		H26第4回WG⑤遺伝毒性の有無の 判断不能→エームス試験(不備あり)	①遺伝毒性なし		
21	★S-4184	T-2015	112-26-5	1, 2-ビス(2-クロロエトキシ)エタン	DMSO	ブレインキューベ ーション法	陽性	1.52×10^1 TA1535(+S9)	本間委員	適		H26第4回WG③強い遺伝毒性あり (強い遺伝毒性ありだが行政指導な しの結論)→エームス試験(不備な し)	②弱い遺伝毒性あり		+
22	S-4246	T-2016	131-17-9	フタル酸ジアリル	脱水DMSO	ブレインキューベ ーション法	陰性		山田委員	適		H26第3回WG⑤遺伝毒性の有無の 判断不能→エームス試験(不備なし)	①遺伝毒性なし		
23	S-4265	T-2017	2581-34-2	3-メチル-4-ニトロフェノール	脱水DMSO	ブレインキューベ ーション法	陰性		山田委員	適		H26第4回WG⑤遺伝毒性の有無の 判断不能→エームス試験(不備なし)	①遺伝毒性なし		+
24	S-4278	T-2018	128-04-1	ナトリウム=N, N-ジメチルジチオカ ルバマート	注射用水	ブレインキューベ ーション法	陽性	2.87×10^3 TA1535(+S9)	山田委員	適		(構造活性相関から)	③強い遺伝毒性あり		+
25	S-4279	T-2019	611-19-8	1-クロロ-2-(クロロメチル)ベンゼ ン	脱水DMSO	ブレインキューベ ーション法	陰性		山田委員	適		H26第4回WG⑤遺伝毒性の有無の 判断不能→エームス試験(不備なし)	①遺伝毒性なし		+
26	★S-5012-6	T-2020	756-79-6	ジメチル=メチルホスホナート	脱水DMSO	ブレインキューベ ーション法	陰性		山田委員	適		H26第3回WG④遺伝毒性の強弱困 難→エームス試験(不備あり)	①遺伝毒性なし		

※試験番号に「★」があるものは、H26年度の遺伝毒性評価WGにおける評価とエームス試験の結果が異なるもの(例:④遺伝毒性の強弱困難の評価で、試験結果による結果の判定が「陰性」)